

新型フェロモントラップを用いた ウコンノメイガの発生予察

1 背景・目的

大豆の主要害虫であるウコンノメイガ(図 1)は幼虫期に葉巻を形成、食害し、小粒化を引き起こすことで減収をもたらす。効率的な防除のためには成虫の飛来を正確に把握することが重要であることから、透明コーン型フェロモントラップ(図 2)の有効性について検討する。



図 1 (左)ウコンノメイガ成虫
(右)ウコンノメイガによる葉巻

2 技術のポイント

- (1) トラップによって得られる成虫の捕獲数のピークは幼虫による葉巻数の増加初期と一致する(図 3)。
- (2) 大豆株に囲まれた圃場中央に設置したトラップは捕獲効率が良く、発生ピークを得られやすい(図 4)。



図 2 透明コーン型フェロモントラップ

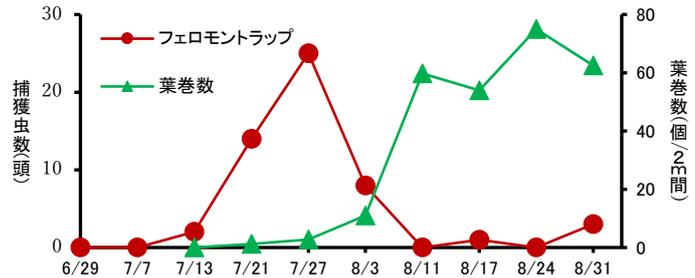


図 3 フェロモントラップ捕獲虫数と葉巻数の推移
(2020年 小松市圃場)

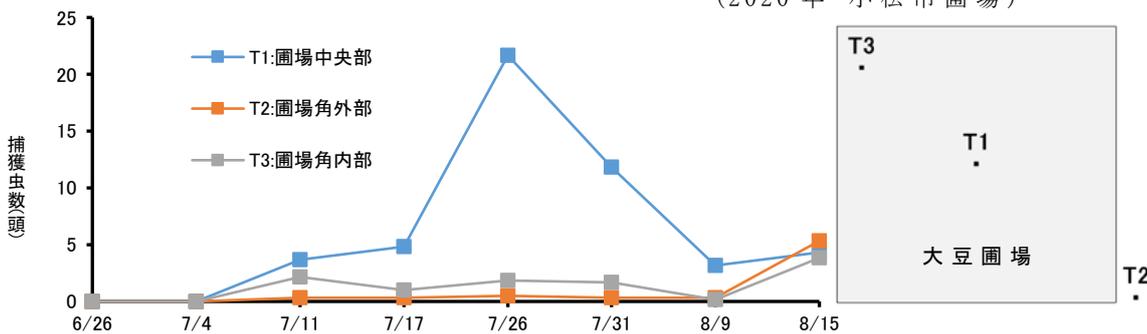


図 4 設置場所の異なるトラップの捕獲虫数

(2019年 金沢市、小松市、白山市圃場の平均値)

3 成果の活用と残された問題点

- (1) 成虫の飛来をモニタリングすることで、次世代幼虫に対する薬剤散布時期の参考となる。

問合せ先: 生物資源グループ TEL 076-257-6911

担当者: 渡邊照之・小出良平・松田絵里子・川上郷子

※本研究は「病虫害の効率的防除体制の再編委託事業」(農林水産省)で実施した。